

来週の「売り物」記事はこれ



2014年10月3日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

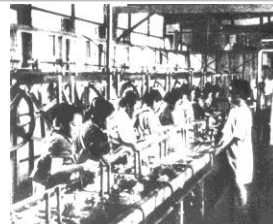
今に生きる女性たちの民衆史

出稼ぎ紡績工女たちの60年

5日(日)



終戦から間もない1950年代、三重県四日市市にあった紡績工場には、長野県伊那地方から大勢の出稼ぎ女性が働いていました。当時、勤労者の中で盛り上がっていたのが「生活記録」というサークル活動です。生活をありのままに書き、仲間で読み、新しい生き方を探ろうというものでした。彼女たちも厳しい労働が終わると、日々



の気持ちをつづり、それらは社会学者の鶴見和子ら当時の文化人の後押しで文集として出版されました。テーマは貧困、生きる悩み、そして何よりも自分たちの母親のことだったといいます。一番不幸に見えたのが、家事などに縛られている母親だったというのが理由でした。それから60年——。彼女たちは、「幸せ」をつかめたのでしょうか。文集を手には彼女たちを訪ねると、もう一つの「女性史」が浮かび上がりました。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

全米準優勝後も快進撃が続く錦織圭選手

元プロテニス選手の記者が見た強さの秘密

夕刊2面特集ワイド 6日(月)



テニスの全米オープンで日本人初の準優勝という快挙を成し遂げた錦織圭選手。その後もマレーシア・オープンで今季3勝目を挙げるなど勢いは止まりませんが、この強さの源泉はどこにあるのでしょうか。13歳で挑戦した米国テニス留学の厳しい日々、度重なるケガのために世界ランキングを失い、下部大会から再び上位大会にはい上がった道のり……。かつてプロテニス選手として4大会にも出場した長野宏美記者が、「私が見た錦織の歩み」をつづります。

「Tokiko's kiss」

おんなのしんぶん面6日(月)

おんなの
しんぶん


加藤登紀子さんの対談コーナー「Tokiko's kiss」。今月のゲストは、「スタジオジブリ」プロデューサーの鈴木敏夫さん＝写真。二人三脚でヒット作を作ってきた宮崎駿監督についてや、作品への思いを語っていただきました。



私の好きな場所～絵本作家・きむらゆういちさん

くらしナビ面4日（土）



こだわりの家づくりを実践する人たちの「とっておきの場所」を訪ねるシリーズ。今回は人気シリーズ「あらしのよるに」などで知られる、絵本作家のきむらゆういちさんの新居です。開放感あふれる屋上のテラスで、夕日を眺めるのが楽しみだそう。その隣には浴室があり、入浴中に物語の構想が浮かぶことが多いのだとか。

スローらいふ～おもちゃドクター くらしナビ面6日（月）

ボランティアで子どもたちのおもちゃを修理する「おもちゃドクター」が全国で活躍中です。1000人余りいる認定ドクターのうち、最も多いのは60代の男性で、最年長は83歳。中高年男性が中心を担っています。かつてプラモデルに熱中していた元少年が、趣味と社会貢献をかねて、いきいきと活動しています。



いよいよノーベル賞ウィークが到来

新たに日本人受賞者が誕生すれば20人目に

7日（火）～13日（月）



「世界で最も価値がある」と言われるノーベル賞が発表されます。医学生理学賞から始まり、物理学賞、化学賞と続きます。自然科学分野のほかにも、文学賞や平和賞、経済学賞が発表されます。日本人の受賞者数は、米国籍の南部陽一郎氏（08年物理学賞）を含め計19人（医学生理学賞2人、物理学賞7人、化学賞7人、文学賞2人、平和賞1人）。新たな受賞者が誕生すれば20人目で、12年に医学生理学賞を受賞した京都大IPS細胞研究所長の山中伸弥教授以来の快挙となります。

1964年東京五輪50周年

10日（金）

1964年の東京五輪・パラリンピック開幕から10日で50年を迎えます。日本オリンピック委員会、東京都などは「スポーツの力、未来へ。」をキーメッセージに6～12日を50周年記念ウィークとし、メモリアル展示、アスリートトークショーなどを開催します。10日は、東京五輪体操団体銅メダリストの小野清子さん、ロンドン五輪200m背泳ぎ銀メダリストの入江陵介選手ら14人が出演するスペシャルトークショー（1964to2020）を開催。公募した1964人によるメモリアルマーチ、メモリアルランで50周年を祝います。毎日新聞は10日朝刊で1964年東京五輪女子バレーボールの「東洋の魔女」インタビュー、2020年東京五輪に向けて若手が躍動する競泳陣などを特集します。1964年東京五輪代表選手団主将の小野喬さんらのインタビュー企画なども掲載します。

